

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2004年11月上旬から12月中旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

1)道東海域

(1)来遊量:減少を続け、11月下旬は低位水準となる。11月中旬以降は断続的になる。

(2)漁場: 11月上旬は襟裳岬南沖が主漁場となる。11月中旬以降は、来遊量が少ないため、漁場ができたとしても散発的となる。

2)三陸海域

(1)来遊量: 11月中旬は中位水準であるが、11月中旬以降、徐々に減少する。11月下旬は低位水準となり、12月上旬以降は断続的になる。

(2)漁場: 11月上旬は、三陸南部では漁場が持続するものの、三陸北部で散発的となる。11月中旬以降は南偏傾向となる。

3)常磐海域

(1)来遊量: 11月上旬は、高位水準へ増加する。11月中旬はゆるやかに減少。11月下旬には急減して12月上旬には低位水準となる。

(2)漁場: 11月上旬以降は、沖合から暖水が波及する可能性があり、小名浜沖～鹿島灘にかけて漁場が持続する。12月上旬以降は、鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位水準	断続的	断続的		
	漁 場	襟裳岬南沖	散発的	散発的		
三陸海域	来遊量					
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	黒崎沖～ 金華山沖	南偏傾向	南偏傾向	南偏傾向	
常磐海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位減少	急減	低位減少	低位水準
	漁 場	小名浜沖 ～鹿島灘	小名浜沖 ～鹿島灘	小名浜沖 ～鹿島灘	鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量は、10月上旬を大幅に下回り、中位水準となった。去年同期も急減しており、10月中旬の来遊量水準としては、昨年・平年並みである。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばの15日夜～16日夜にかけて来遊量が急増したが、その後徐々に減少した模様。

(2) 漁場

今期は、落石南東20海里～霧多布南25海里付近、厚岸大黒島南南東15海里～釧路南30海里付近、襟裳岬東北東30海里～東南東20海里付近、襟裳岬南60海里付近が漁場となった。

落石南東40海里～南80海里付近の表面水温13～15℃台が漁場となったのは、1日夜～4日夜と7日夜であった。大型船・小型船ともに操業。小型船で満船となる船が多く、大型船で50～60トン漁獲した日が多かった。

厚岸大黒島南南東15海里～釧路南30海里付近の表面水温14～15℃台では、16日夜まで漁場が持続。19日夜から再び漁場となる。大型船・小型船ともに操業。小型船で満船となる船が多く、大型船で40～60トン漁獲する日が多かった。やや濃い～淡い中～小群。14日夜～15日夜は、濃い中群が多かったが、その後淡く小群が多くなった。

襟裳岬東北東30海里～東南東20海里付近の表面水温14～15℃台が漁場となったのは、12日夜、16日夜、17日夜、19日夜、20日夜であった。大型船が操業し、50～60トン漁獲する船もあったが、船間差大きく、数トン～30トン程度の船も多かった。

襟裳岬南60海里付近の表面水温15℃台が漁場となったのは、12日夜のみ。大型船が操業し、10～20トン前後漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

落石沖の漁場は大3-中3-小4が主体。他の漁場は3-3-4～2-4-4～2-3-5。期前半は、中型(体長28cm台以下)が6～7割程度混じる群が多かった。来遊量が増加した15日夜には、大型魚(体長29cm以上)の割合が増加したものの、その後再び中型魚の割合が増加した。大型魚は30cmモード、中型魚は26～27cmモードであった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月上旬を大幅に上回り、中位水準となった。平年並みの水準で、昨年を上回った。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、12日夜から～13日夜にかけて来遊量が急増したが、その後徐々に減少。17日夜に再び急増した。

(2) 漁場

今期は、久慈東20海里～黒崎東南東30海里、宮古東25海里～鮎ヶ埼南東35海里、大船渡東5～10海里、気仙沼東55海里～東北東60海里、女川北東15～金華山南南東15海里が漁場となった。各漁場とも、大型船が主体で操業した。

久慈東20海里～黒崎東南東30海里付近の表面水温15～18℃台が漁場となったのは、12日夜～13日夜。12日夜は数トン～20程度、13日夜は60トン程度漁獲。

宮古東 25 海里～鮭ヶ崎南東 35 海里付近の表面水温 15～18℃台が漁場となったのは、14 日夜～15 日夜、20 日夜であった。14 日夜～15 日夜は、数トン～55トン程度。20 日夜は数トン～20トン程度漁獲。

大船渡東 5～10 海里付近の表面水温 18℃台が漁場となったのは、20 日夜であった。数トン～30トン程度漁獲した。

気仙沼東 55 海里～東北東 60 海里付近の表面水温 15～16℃台が漁場となったのは、14 日夜。40～60トン漁獲した船が多かった。

女川北東 15～金華山南南東 15 海里付近の表面水温 15～18℃台が漁場となったのは、17 日夜以降。船間差が大きく、60トン～80トン漁獲した船もあるが、数トン程度の船もあった。

(3) 魚体

2-4-4 が主体で、3-3-4 が混じる。道東海域と比べ、大型の割合が少ない傾向があった。大型魚は 30cm モード、中型魚は 26～27cm モードであった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10 月上旬をやや上回ったものの、平年・昨年を大きく下回り、低位水準であった。漁場が出来たのは、19 日夜だけである。

(2) 漁場

19 日夜に、請戸沖 20 海里～塩屋崎東北東 25 海里付近の表面水温 17～18℃台で大型船が操業した。漁獲量は、5～35トン程度。

(3) 魚体

2-4-4 が主体。漁獲物の組成は、30cm モードの大型魚と、26～27cm モードの中型魚主体であった。体重 150g 以上の割合が 1 割程度であった。